

私と俳句 上田 満里子さん(柏)



▲夏井いつきさんのカレンダーと記念撮影する上田さん



▲ひよこ句会で発行した句集。上田さんの俳号は「まりりん」

◀上田さんが指導を務めている子ども俳句教室（DE・あ・い・21にて）

“俳句を通して出会ったものに人生を支えられました”

DE・あ・い・21の子ども俳句教室や自在園での俳句づくりボランティアなど、町内のさまざまな場所で俳句を詠む楽しさを伝える活動をしている俳人・上田満里子さん。11月19日(日)に行われた「トレッキング・ザ・空海あいなん」の句会ライブでは、上田さんの詠んだ句が会場の投票多数により最優秀作品に選ばれました。

子ども教室では、季語や俳句の題材になるものを実際に見たり触ったりしながら句を作る活動を大事にしているという上田さんが俳句に触れ始めたのは、27年ほど前。まだ現役の教員だった頃、子どもたちへの教育活動の一環として俳句を取り入れる中で初めて俳句を学び始めたと言います。最初は何もかも手探りで分からないことばかりだった中、愛南町出身の俳人・夏井いつきさんと出会って声を掛けられ、ひよこ句会に入ったことが俳句人生のきっかけでした。「夏井先生は初心者の私の句を見ても、否定することなくまずは受け入れてくれました。だから、自分の好きなように俳句を続けていくことができました」と、懐かしそうに思い出を振り返りました。

俳句を通して子どもたちとつながっていくことも、人生を支える楽しみの一つだと上田さんは語ります。「私は、教室の中で言葉や文法などの指導はあまりしません。それよりも子どもたちが俳句を好きになってくれるように、自由に句を作ってもらっています。こうすべきとか、これが正しいとかいうより、自分の気持ちを素直に表現するおもしろさを楽しんでほしいと思います」と、子ども教室での様子を語りました。

「私は俳句に人生を支えられてきました。心や体が弱ったときも、俳句を通して得た経験や俳句仲間、子どもたちの存在が支えになりました。だからこそ、自分の活動を通していろんな人に感謝の気持ちを伝えていきたいです」と、これまで、そしてこれからの俳句活動に込めた思いを語りました。

編集後記

トレッキング・ザ・空海あいなんの句会ライブ中、見慣れない「カンタロウミズ」の大きさに驚いたという声があり、それを詠んだ句も投句されていました。私たちには見慣れた大ミズも、遠方から来られた方には珍しかったようです。

ちなみに句会ライブ中に知ったのですが、カンタロウミズは正式名称「シーボルトミズ」というそうです。皆さん、ご存じでしたか？

船越小・福浦小合同磯釣り体験の取材中、保護者や地域の方が児童たちの釣りの様子を見るため漁船で立ち寄る場面があり、山育ちの私にはとても新鮮で良い光景だなと。

すると、湾内を優雅に泳ぐイルカが出現。「見て！イルカおるよ！」と少しはしゃぎながら児童に言う「イルカ来ちゃうと釣れなくなるんです」って優しく教えてくれました。海のこと、もっと勉強しときます！

愛南町の世帯数と人口 令和5年12月1日現在

世帯数	9,941世帯	(-6世帯)
人口	19,080人	(-17人)
男	9,039人	(-3人)
女	10,041人	(-14人)
愛南町の高齢化率	46.8%	
	※ () 内は前月比	

●10年前 同月の人口 24,069人

編集・発行

愛南町役場総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

<https://www.town.ainan.ehime.jp/>